

地域包括ケアにおける在宅・外来高齢者の 医薬品適正使用の推進に向けた 薬学的管理業務の質評価指標の開発運用に 関する実証研究

串田 一樹 氏

昭和薬科大学 地域連携薬局イノベーション講座
特任教授



1.背景

高齢者は、加齢に伴う生理機能の低下および服用薬剤数の増加により、重複投薬、服薬アドヒアランスの低下、薬物間相互作用のリスクが高くなることが知られている。これらのリスクを早期に発見・解決するためには、多職種が連携しながら患者の薬物治療を管理することが求められる。中でも、薬学的見地から処方内容や患者の状態を評価する薬剤師の役割は重要であり、多職種チームの一員として積極的な関与が期待されている。しかし、薬剤師の資質のバラツキや薬剤師の役割に関する多職種間での認識の相違などにより、薬剤師が多職種の中で本来の役割を発揮できておらず、結果として高齢者の医薬品適正使用が実現できていないことが少なくない。

そのような中、近年、Quality Indicator (QI)と呼ばれる薬学的管理業務の質評価指標を用いて、医薬品使用の適正化を進める取組みが主に先進国で広がりつつある。QIは、エビデンスまたは有識者内でのコンセンサスが得られているケアが、必要な患者に過不足なく実施されたかどうかをスコア化してパーセンテージで算出し、ケアの質を施設単位で評価するために使用されるツールである。QIを用いることで、薬学的管理業務の質を数値化できるため、現状を把握することができる。加えて、目標値を設定した上でPDCAサイクルを回すことで、目標達成に向けた進捗を経時的に把握することが可能となる。目標達成に向けた活動は、薬剤師だけではなく医師や看護師をはじめとする医療・介護従事者との連携が不可欠であることから、多職種連携の質も向上することが期待される。このように、高齢者の医薬品適正使用の推進に向けて、薬剤師がQIを用いた多職種連携は重要であると考えられるが、我が国においてはこのような研究はなされていない。

2.目的

本研究は、在宅患者を含めた高齢者に対する薬学的管理業務の質評価指標を開発・運用し、質改善活動を実施した際の効果を多職種連携および医薬品適正使用の観点から検証することを目的とする。

3.計画

①QI開発フェーズ

多職種で構成される専門家委員会を設置し、高齢患者の薬学的管理の質を評価するQIの適切性に関して、デルファイ変法と呼ばれる手法を用いて評価する。

②QI運用フェーズ

全国から約30～50薬局の協力の下、開発したQIを用いて薬学的管理の質改善活動を6ヶ月間実施し、各QIスコアの改善度合を評価する。また、参加薬局および連携している多職種を対象にインタビューを行い、QI運用に対する意見を集約する。

4.期待される効果

本研究により、高齢者の医薬品適正使用の現状把握およびQI運用による改善効果が明らかになる。また、多職種連携のさらなる推進に向けた課題と解決策を提示することができる。さらに、本研究の成果を基に大規模介入研究へとつなげることで、高齢者の生活の質向上、健康寿命の延伸、国民医療費の抑制が期待できる。